

コミュニティバス北部循環市立病院線 のダイヤ見直しについて

1. コミュニティバス全体の利用状況（1）概要

- ・コミュニティバス全体（予約型乗合バス含む）の1日あたりの利用者数は1,288人（H28年度上期）でほぼ横ばい傾向
- ・路線別の1日あたりの利用者数は、中海岸南湖循環市立病院線が増加し726人/日で、その他の路線は横ばい傾向
- ・市負担額は、H26年度の約1億円から減少傾向にあり、H28年度は90,000千円程度の見込み

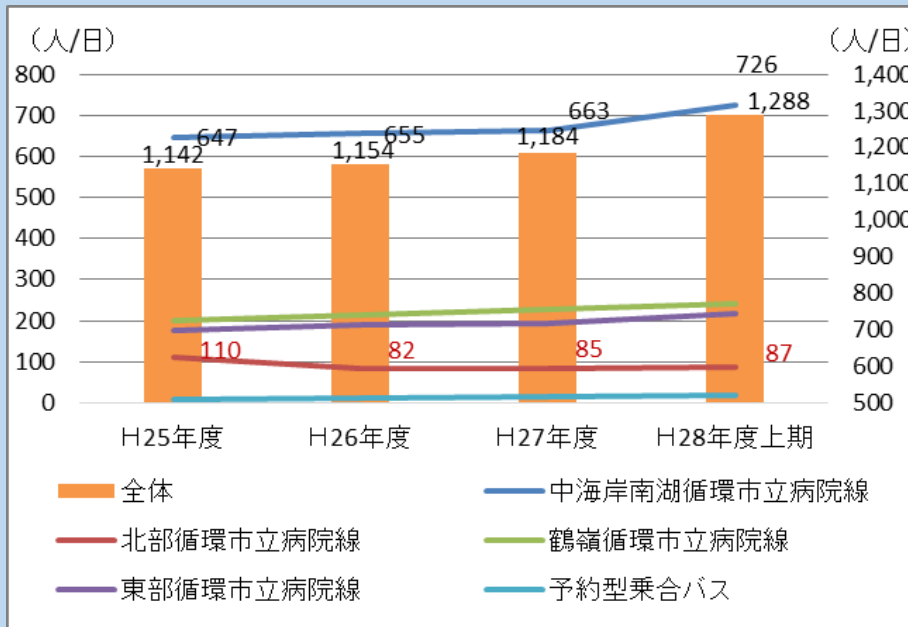


図 日平均利用者数の推移

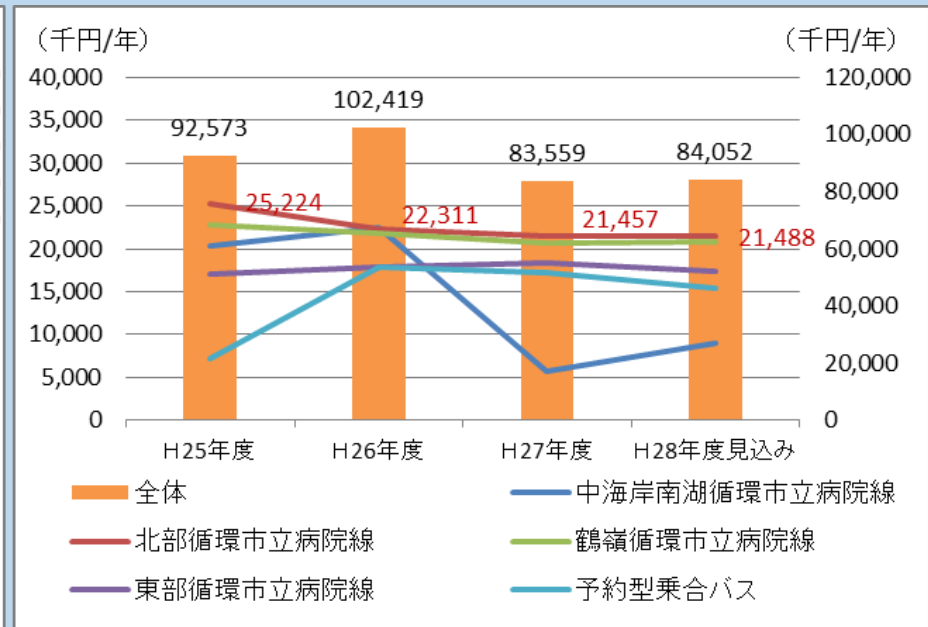


図 市負担額の推移

1. コミュニティバス全体の利用状況（2）収支

- ・市負担額の割合は、中海岸南湖循環市立病院線が14%と良く、北部循環が79%、鶴嶺循環・東部循環が約60%
- ・予約型乗合バスは97%を市の負担で維持
- ・コミュニティバスで最も運行効率が高い中海岸南湖循環市立病院線は1人あたり170円/人（H27年度）、最も低い北部循環市立病院線が826円/人
- ・予約型乗合バスは導入当初、1人あたり約1万円掛かっていたがH28年度見込みでは約2千円に改善
- ・しかし、コミュニティバスに比べて予約型乗合バスの運行効率は低い

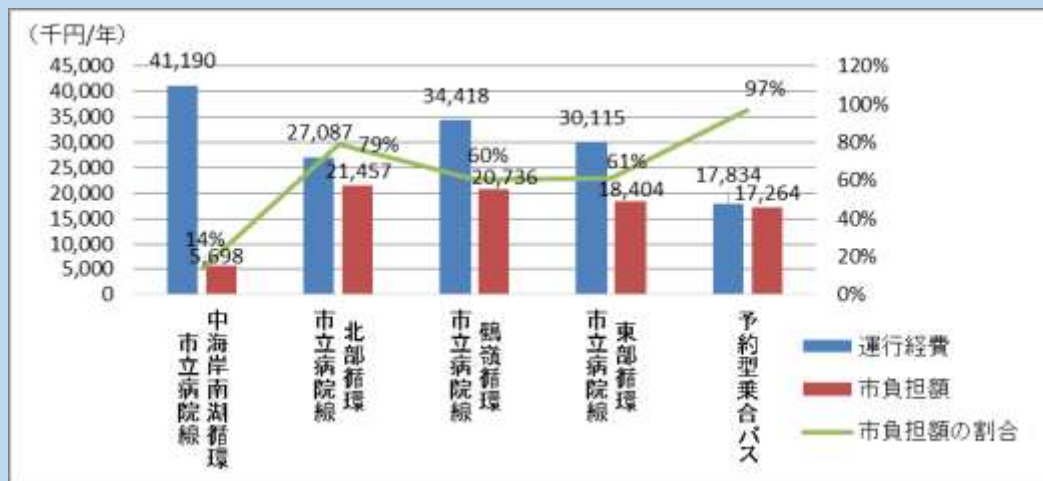


図 収支(H27年度)

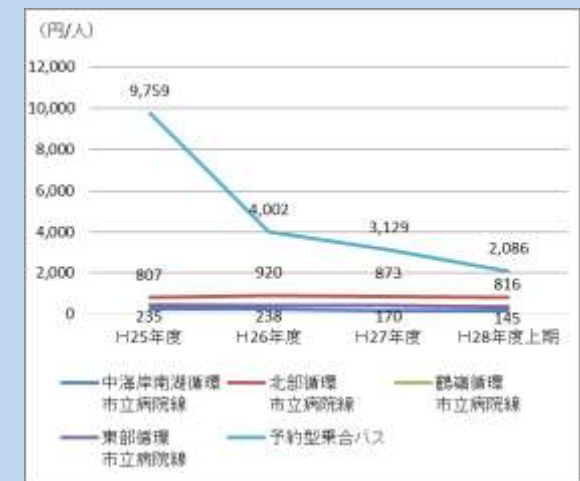


図 1人あたり運行経費(H27年度) 2

2. 北部循環線の利用状況 (1) 利用者数の推移

- ・平成20年度の約5万人/年をピークに減少傾向
- ・昨年度(平成27年度)は、3万7千人/年

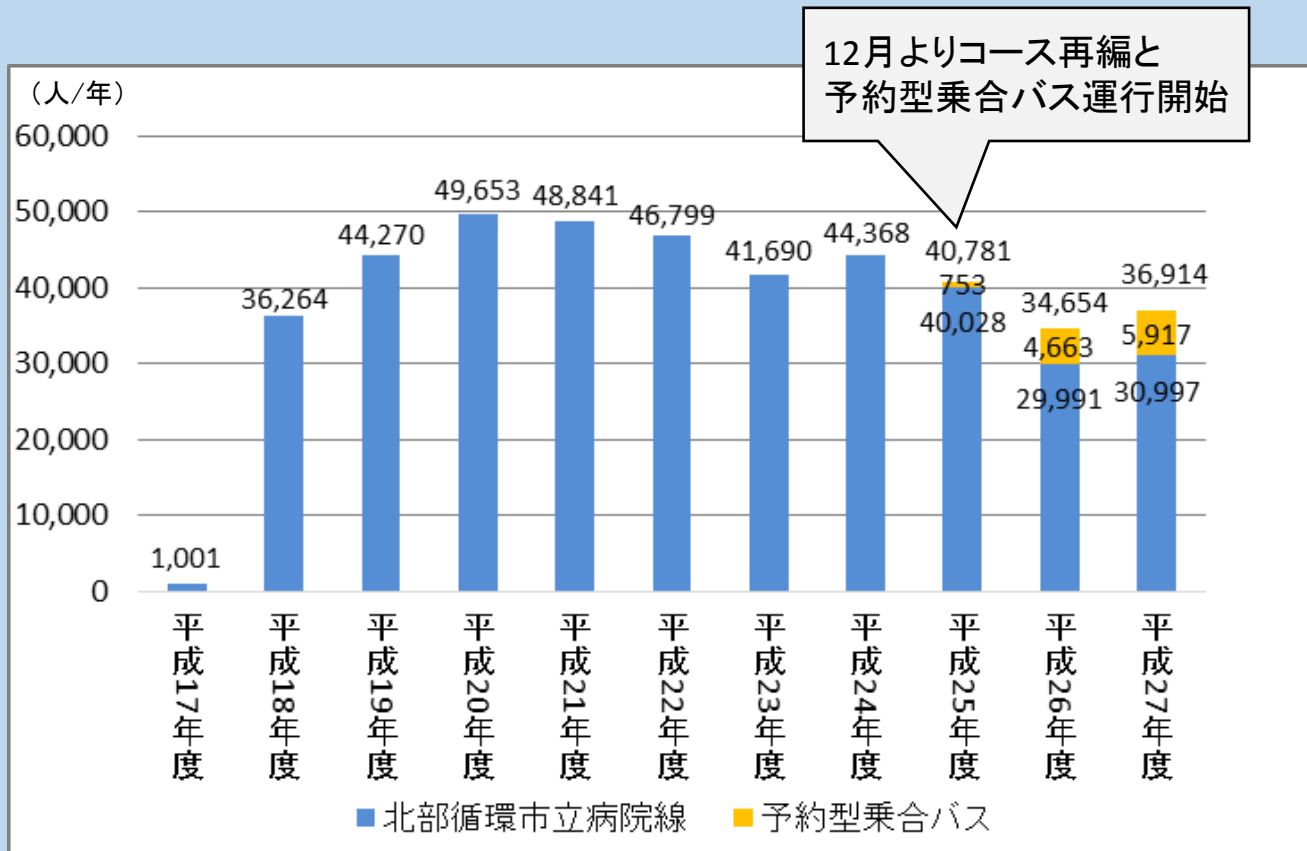


図 年間利用者数の推移

■ 予約型乗合バス導入前



■ 予約型乗合バス導入後



2. 北部循環線の利用状況 (2) 便別の利用者数

- ・7:50発(市立病院発)が最も利用が多く1便あたり11.7人/便
- ・最終前の12便と最終の13便の利用者が約2人/便と少ない

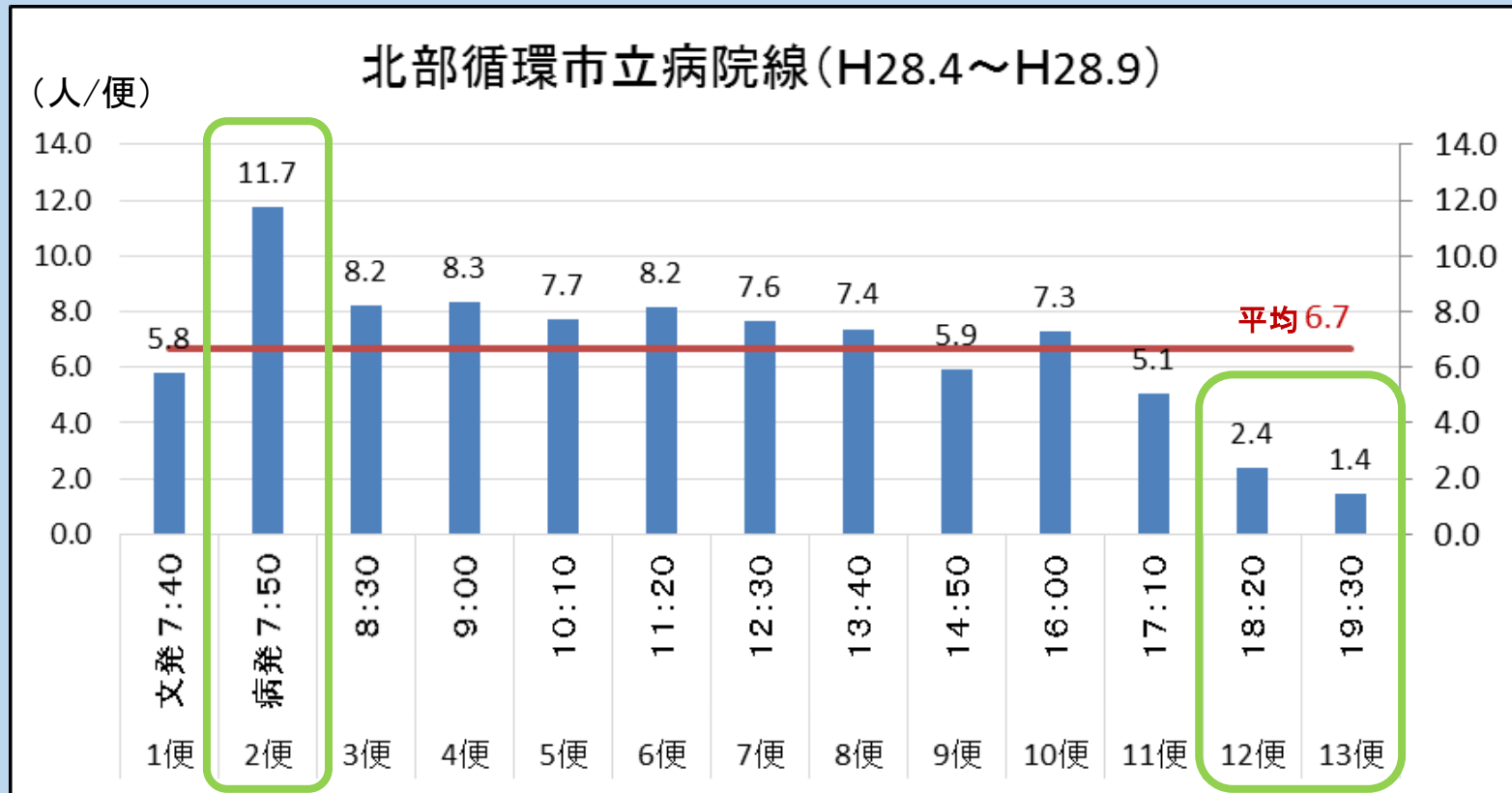


図 便別の平均利用者数

3. 日常の移動時間帯とダイヤ改正の方向性

- ・終バス(19:30発→20:23着)の19時台・20時台は30人前後が移動
 - ・ピークの7時台は、終バス時間帯の約3倍の86人が移動
- ⇒ 移動量が少ない終バス時間帯の利用者数増加は期待できない
 ⇒ 移動量が多い始発の時間帯の充実が望ましいと考えられる

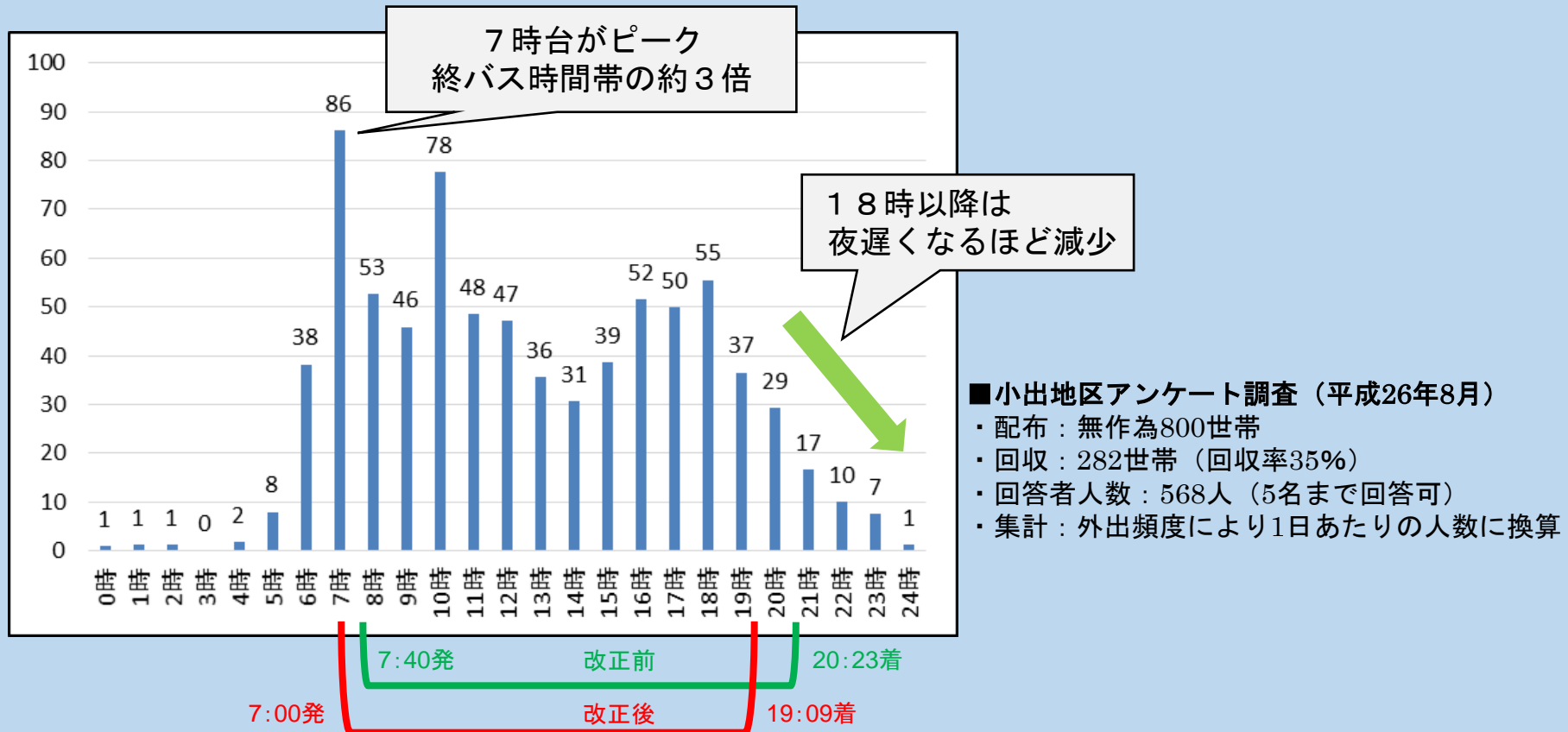


図 日常の移動時間帯(アンケート調査結果)

4. 期待される需要予測(参考値)

- 改正前の「7:05発」「7:25発」の利用者11人のうち5人が改正後の便(7:40発)に転換できなかったと考えられる
- 利用の少ない最終便を始発(7:00頃)にシフトし、転換できなかった5人の利用が戻ったと仮定すると年間1,200人の利用者が見込める
【減便(最終便)】1.4人/便 × 20日/月 × 12ヵ月 = 336人
【増便(始発便)】5.0人/便 × 20日/月 × 12ヵ月 = 1,200人(3.6倍)

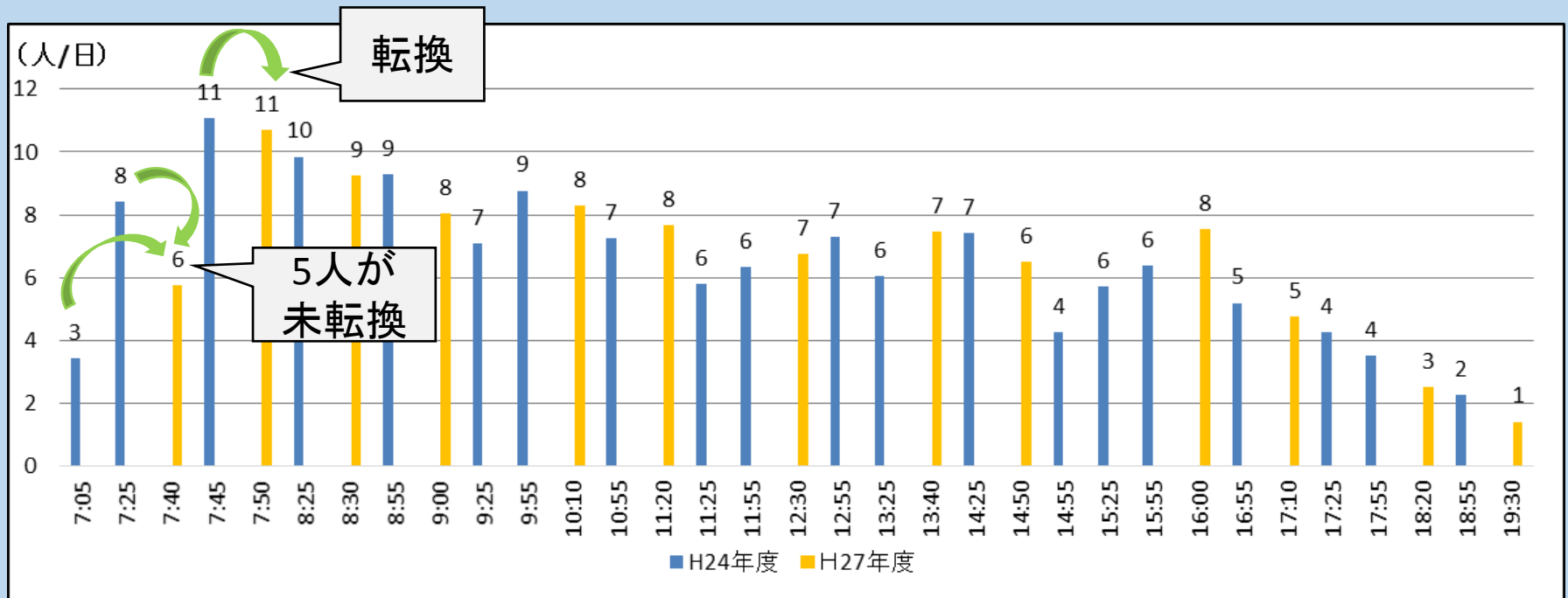


図 H24年度(改正前)とH27年度(改正後)の便別日利用者数

5. ダイヤ改正(1)協議事項

■ダイヤ改正の考え方

- ・市の財政負担が伴わない範囲で、より地域の方にとって便利な移動手段となるよう最終便を始発にシフトするダイヤ改正を行う

■ダイヤ改正

【増便】平日 文教大学発 7:00(北部コース)

【減便】平日 市立病院発 19:30(新芹沢コース)

■スケジュール

- ・平成28年12月 ~ 平成29年1月 国(運輸局)への手続き
- ・平成29年2月 ~ 平成29年3月 改正

5. ダイヤ改正(2)報告事項

■ 目標利用者数の設定による利用促進

- ・国の地域公共交通確保維持改善事業では、目標値を設定し、モニタリングと事業評価をPDCAサイクルの中で実施していくことを推進
- ・ダイヤ改正により利用者数の増加を期待しているが、一部の利用にとどまり利用者数が伸びないことが想定される

⇒ 利用者数増加は、地域の方の協力が不可欠

⇒ 今後、目標値(指標と基準値)を設定し1年間程度モニタリングした上で運行継続を判断する進め方を予定

取り組みの狙い

目標値を予め公開し、目標値に達していない状況において、「地域公共交通は地域で支える」という地域の方の意識改革によりバス利用の促進に期待